

医学教育分野別評価  
大分大学医学部医学科  
年次報告書  
2024 年度



国立大学法人

大分大学

## 医学教育分野別評価 大分大学医学部医学科 年次報告書 2024 年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和 3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 32

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36

### はじめに

本学医学部医学科は、令和 3 年度に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2023（令和 5）年 2 月 1 日より 7 年間の認定を受けた。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 を踏まえ、2023（令和 5）年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2023（令和 5）年 4 月から本報告書提出年度である 2024（令和 6）年 3 月までを対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 の転記は省略した。

## 1. 使命と学修成果

領域1における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、すべての教員が教育に関わる委員会（会議体）に参加する仕組みを策定した。これに伴い、すべての教員が教育に関する審議・検討に参加することになった。

新たに構築した教育システムにおいて医学教育に携わる教員、学生及び医療と保健に関わる分野の関係者に対して、学部の使命と学修成果をさらに周知し、理解を求めていくことが今後の課題である。また、使命や学修成果を見直す際に、学生を含めた教育に関わる主要な構成者が参画する仕組みを整える必要がある。

### 1.1 使命

#### 基本的水準：適合

医学部は、

- 学部の使命を明示しなくてはならない。(B 1.1.1)
- 大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者にその使命を示さなくてはならない。(B 1.1.2)
- 使命のなかに、以下の資質・能力を持つ医師を養成するための目的と教育指針の概略を定めなくてはならない。

- 学部教育としての専門的実践力(B 1.1.3)
- 将来さまざまな医療の専門領域に進むための適切な基本(B 1.1.4)
- 医師として定められた役割を担う能力(B 1.1.5)
- 卒後の教育への準備(B 1.1.6)
- 生涯学習への継続(B 1.1.7)
- 使命に社会の保健・健康維持に対する要請、医療制度からの要請、およびその他の社会的責任を包含しなくてはならない。(B 1.1.8)

### 特記すべき良い点（特色）

- なし

### 改善のための助言

- 「大分大学医学部の理念」、「大分大学医学部医学科の教育理念と目的」、「大分大学医学部卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の位置づけや関係性をより明確にすべきである。
- 大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者に対して、学部の使命をさらに周知し、理解を求めるべきである。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

基幹教員として医学教育に携わる助教以上の教員全員が、教育に関わる委員会（会議体）への参加する仕組みを策定した。これにより、すべての教員が医学部各種委員会等の審議・検討に参加することとなった。すべての教員が使命を理解できるよう、FD等を通じて周知を図っていく。[資料 01] [資料 02] [資料 03]

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 01 令和 5 年度第 15 回教授会議事概要
- 資料 02 基幹教員に対応する医学科新会議体制図
- 資料 03 規定等の制定、改廃等について取り纏め

## 1.4 使命と成果策定への参画

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 使命と学修成果の策定には、教育に関わる主要な構成者が参画しなければならない。(B 1.4.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

- ・使命と目標とする学修成果について見直しを行う際には、その作成段階から学生を含む教育に関わる主要な構成者が積極的に参画すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和 5 年度に教育組織の見直しを行い、各委員会の役割を明らかにするための議論を行った。その中で、使命と学修成果を策定する委員会はどこかについて検討を行った。

今後、使命と学修成果について議論を行う際に、学生を含め主要な構成者が参画できる体制を整える必要がある。令和 6 年度以降、その体制を確立する。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

## 2. 教育プログラム

領域 2 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、令和 4 年度の教育医長会議で共有したピア評価を、「症候学」に採り入れ実施するとともに、3 年次の科目において、講義の出席状況、アクティブ・ラーニング等の結果を総合的に評価し、優秀者を表彰する取り組み、研究室配属において、政府統計や NDB オープンデータを用いた研究手法についての指導、臨床実習にて、EBM による臨床判断についてのレクチャーを一部の講座で開始した。

行動科学に関連する医療倫理学、公衆衛生・疫学、総合内科・総合診療科学、医学教育センターの教員でプロジェクトチームを作り、全修学期間を通じた行動科学のカリキュラム策定作業を開始した。

今後は、主要な診療科における臨床実習の期間について、充分であるかどうか、臨床医学部会等で検討を行う。また、各科目と令和 4 年度のモデル・コア・カリキュラムとの突合を進め、医学教育に携わる教員がカリキュラムを理解し、学生を支援するカリキュラムを提供していくことが課題である。

## 2.1 プログラムの構成

### 基本的水準：適合

医学部は、

- カリキュラムを明確にしなければならない。(B 2.1.1)
- 学生が自分の学修過程に責任を持てるように、学修意欲を刺激し、準備を促して、学生を支援するようなカリキュラムや教授方法/学修方法を採用しなければならない。(B 2.1.2)
- カリキュラムは平等の原則に基づいて提供されなければならない。(B 2.1.3)

### **特記すべき良い点（特色）**

- すべての修学期間において医学・医療英語教育を実施している。

### **改善のための助言**

- 能動的学修の要素をさらに取り入れる等、学修意欲を刺激し、準備を促すべきである。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

4年次の「症候学」において学生同士でのピア評価を採り入れ、実施した。3年次のライフサイクル（小児科学）において、講義の出席状況、アクティブ・ラーニング（グループ別発表会）、筆記テストの結果を総合的に評価し、優秀者を表彰する取り組みを開始した。[資料 04] [資料 05] また、令和4年度改訂版のモデル・コア・カリキュラムとの突合を進めている。

ピア評価の学修上の有効性、実施可能性を評価して、有用性が示されれば、他科目への拡大を検討する。

### **改善状況を示す根拠資料**

- 資料 04 症候学ピア評価
- 資料 05 ライフサイクル（小児科学）表彰状

## 2.2 科学的方法

### 基本的水準：適合

医学部は、

- カリキュラムを通して以下を教育しなくてはならない。

- 分析的で批判的思考を含む、科学的手法の原理(B 2.2.1)
- 医学研究の手法(B 2.2.2)
- EBM(科学的根拠に基づく医学)(B 2.2.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- 4年次で約3ヶ月間の「研究室配属」によって学生の研究マインドを涵養している。
- 臨床薬理学の教育で臨床実習前のEBM教育が充実していることは評価できる。

### 改善のための助言

- 臨床実習の現場において、EBM教育を体系的に実施すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床薬理学講座に配属された学生の研究を第7回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会で発表した。[資料06] 総合診療・総合内科学講座の研究室配属において、政府統計やNDBオープンデータを用いた研究手法について指導した。[資料07]

総合内科・総合診療科の臨床実習において、全クールの学生にEBMによる臨床判断についてのレクチャーを開始した。[資料08]

引き続き学生の学会発表等を支援するとともに、EBMの実践的な教育プログラムの充実を図る。総合診療・総合内科学講座の研究室配属では、今後も幅広い種類のオープンデータを用いた研究手法についての指導を継続する。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料06 第7回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会プログラム
- 資料07 令和5年度研究室配属報告書
- 資料08 総合内科・総合診療科 クリニカル・クラークシップスケジュール

### 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- カリキュラムに大学独自の、あるいは先端的な研究の要素を含むべきである。(Q 2.2.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- なし

### 改善のための示唆

- 「Pre-ORPhDプログラム」をより拡充することが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

研究室配属に関し、これまでは基礎医学部会が議論してきたが、研究室配属に対し責任を持つ部会として新たに「研究室配属部会」を設置し、研究意欲を継続し、Pre-ORPhD、ORPhD、大学院の研究につながるように体制を整えた。[資料 02] [資料 03] [資料 09]

研究への興味を醸成するカリキュラムとなるよう、今後検討を重ねていく。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 02 基幹教員に対応する医学科新会議体制図
- ・ 資料 03 規定等の制定、改廃等について取り纏め
- ・ 資料 09 大分大学医学部研究室配属部会内規

## 2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

### 基本的水準：適合

医学部は、

- ・ カリキュラムに以下を定め、実践しなければならない。
  - ・ 行動科学(B 2.4.1)
  - ・ 社会医学(B 2.4.2)
  - ・ 医療倫理学(B 2.4.3)
  - ・ 医療法学(B 2.4.4)

### 特記すべき良い点（特色）

・ 1年次～4年次にわたり医療倫理学カリキュラムを定め、実施していることは評価できる。

### 改善のための助言

・ 行動科学のカリキュラムをより体系的に構築し、教育に関わる主な関係者に明示すべきである。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

行動科学に関連する医療倫理学、公衆衛生・疫学、総合内科・総合診療科学、医学教育センターの教員でワーキンググループを作り、全修学期間を通じた行動科学のカリキュラム策定作業を開始した。[資料 10] [資料 11]

今後は、行動科学の学修項目と教育方略をまとめ、体系的カリキュラムを作成する。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 10 令和 5 年度第 2 回医学教育企画開発委員会議事概要
- ・資料 11 行動科学カリキュラム検討ワーキング構成員名簿

## 2.5 臨床医学と技能

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 臨床医学について、学生が以下を確実に実践できるようにカリキュラムを定め実践しなければならない。
  - ・ 卒業後に適切な医療的責務を果たせるように十分な知識、臨床技能、医療専門職としての技能の修得(B 2.5.1)
  - ・ 臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間中に十分持つこと(B 2.5.2)
  - ・ 健康増進と予防医学の体験(B 2.5.3)
- ・ 主要な診療科で学修する時間を定めなくてはならない。(B 2.5.4)
- ・ 患者安全に配慮した臨床実習を構築しなくてはならない。(B 2.5.5)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 全員が予防医学を体験できるプログラムが実施されている。
- ・ 職員に対して実施している医療安全管理セミナーを学生にも受講させ、最新の医療安全に関連する情報を提供し、教育している。

### 改善のための助言

- ・ 主要な診療科で十分な臨床実習期間を確保すべきである。
- ・ 学生による医行為の実施状況を把握し、臨床技能修得の機会を十分に確保すべきである。
- ・ 診療参加型臨床実習を充実させるために、全診療科において、学生によるカルテ記載を確実に行うべきである。
- ・ シミュレーション教育を充実させて、より患者安全に配慮した臨床実習を構築すべきである。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

地域医療実習において、各実習先に地域の健康課題と健康増進・介護予防施策につ

いて指導機会を設けるように依頼し、実際に自治体の保健担当者による指導機会を確保した。[資料 12] 主要な診療科における臨床実習の期間について、充分であるかどうか、今後臨床医学部会等で検討を行う。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 12 地域医療実習施設プログラム（竹田医師会病院）

### 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・ 臨床医学教育のカリキュラムを以下に従って調整および修正すべきである。
  - ・ 科学、技術および臨床の進歩(Q 2.5.1)
  - ・ 現在および、将来において社会や保健医療システムにおいて必要になると予測されること(Q 2.5.2)
- ・ すべての学生が早期から患者と接触する機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参加を深めていくべきである。(Q 2.5.3)
- ・ 教育プログラムの進行に合わせ、さまざまな臨床技能教育が行われるように教育計画を構築すべきである。(Q 2.5.4)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 早期体験実習や2週間の地域医療実習で、学生が地域に滞在し、医療のみならず保健・介護・福祉、住民の生活を含めた実習を行っていることは評価できる。
- ・ サージカルラボセンター（SOLINE）でのウェットラボ・ハンズオン・トレーニング等を通して最前線の医療技術を体験する機会を提供していることは評価できる。

### 改善のための示唆

- ・ なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

スキルスラボ運営委員会を立ち上げ、シミュレーション教育の時間を各科に割り振りし、運用を開始した。消化器外科、呼吸器外科、泌尿器科、放射線科、総合診療科、救命救急科、など、使用する診療科が増加した。また、運用を終えた手術ロボット（daVinci）をスキルスラボに搬入し、専攻医・研修医を対象とした教育プログラムの作成を開始した。[資料 13]

今後は、手術支援ロボットの学生教育への利用可能性を検討する。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 13 令和 5 年度（第 1 回）スキルラボセンター運営委員会議事概要

## 2.7 教育プログラム管理

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- ・学修成果を達成するために、学長・医学部長など教育の責任者の下で、教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つカリキュラム委員会を設置しなくてはならない。(B 2.7.1)
- ・カリキュラム委員会の構成委員には、教員と学生の代表を含まなくてはならない。(B 2.7.2)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

- ・教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会を明確にし、その委員会に学生の代表を含むべきである。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

医学教育の PDCA のサイクルを回していくために「医学教育企画開発委員会」を「医学教育カリキュラム委員会」に名称変更した。これまで 4・5 年生の学生のみが参加していたが、令和 5 年度からは全学年の学生が参加することとなった。委員会の審議事項等を見直すとともに下部組織として部会を配置することとした。[資料 10] [資料 02] [資料 14]

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 10 令和 5 年度第 2 回医学教育企画開発委員会議事概要
- ・資料 02 基幹教員に対応する医学科新会議体制図
- ・資料 14 大分大学医学部医学教育カリキュラム発委員会細則

### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- カリキュラム委員会を中心にして、教育カリキュラムの改善を計画し、実施すべきである。(Q 2.7.1)
- カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むべきである。(Q 2.7.2)

### 特記すべき良い点（特色）

- なし

### 改善のための示唆

- 教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育企画開発委員会（現在は医学教育カリキュラム委員会）に日本医学教育学会認定医学教育専門家1名が参画した。[資料10]

今後は、その他、医学領域以外の教育専門家の参画も検討する。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料10 令和5年度第2回医学教育企画開発委員会議事概要

## 3. 学生の評価

領域3における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、教務委員会でピア・レビューする体制を強化し、全科目の評価法をシラバス内に確実に記載することとした。また、回復試験と進級基準について、学生が理解しやすいよう周知方法を改善するため規程の改正を行った。

アウトカムの評価について、評価方法の信頼性と妥当性を検証し、確実に評価を行うことが今後の課題である。

### 3.1 評価方法

#### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 学生の評価について、原理、方法および実施を明確にし、開示しなくてはならない。開示すべき内容には、合格基準、進級基準、および追再試の回数が含まれる。(B 3.1.1)
- 知識、技能および態度を含む評価を確実に実施しなくてはならない。(B 3.1.2)
- さまざまな評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用しなくてはならない。(B 3.1.3)
- 評価方法および結果に利益相反が生じないようにしなくてはならない。(B 3.1.4)
- 評価が外部の専門家によって精密に吟味されなくてはならない。(B 3.1.5)
- 評価結果に対して疑義申し立て制度を用いなければならない。(B 3.1.6)

### 特記すべき良い点（特色）

- 「大分大学教育マネジメント機構」、「教学マネジメント室」により、成績分布に偏りがある科目について評価の妥当性を検証している。

### 改善のための助言

- すべての科目について、シラバスに評価方法を確実に記載すべきである。
- 「回復試験」を含めた履修修了の認定の方法を規則に定め、適切な方法で開示すべきである。
- 知識、技能および態度の領域に合わせた適切な評価を、それぞれ確実に行うべきである。
- 評価が教育と評価を担当する当事者以外の専門家（学内外を問わない）によって精密に吟味されるべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

作成したシラバス（案）を教務委員会でピア・レビューする体制を強化し、全科目の評価法をシラバス内に確実に記載することとした。

回復試験と進級基準について、学生が理解しやすいよう周知方法を改善するため、医学部規程の「医学科授業科目の再履修等」第12条及び第13条の規程を見直し、規程の改正を行った。[資料15]

全学の「教育マネジメント機構教学マネジメント室内部質保証委員会」において、令和4年(2022年)度各学部及び各研究科の成績分布の適切性の検証を実施した。[資料16] [資料17]

回復試験および進級基準について、未だ明確でない部分があるため、「進級判定にかかるWG」を設置し、進級基準の明確化とその内容を履修規定への明記を含めて検討を行う。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 15 大分大学医学部規程
- ・資料 16 令和5年度（2023年度）第6回教育マネジメント機構教学マネジメント室  
内部質保証委員会議事概要
- ・資料 17 2022年度医学科科目の成績分布の適切性の検証

### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示すべきである。(Q 3.1.1)
- ・ 必要に合わせて新しい評価方法を導入すべきである。(Q 3.1.2)
- ・ 外部評価者の活用を進めるべきである。(Q 3.1.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 知識、技能、態度のすべての領域の評価について、信頼性と妥当性を確実に検証することが望まれる。
- ・ ポートフォリオ評価を効果的なものとなるように改善することが望まれる。
- ・ mini-CEX、360度評価などの新しい評価法をより積極的に活用することが望まれる。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

教育情報分析室会議において、これまで医学部教育情報分析室で分析していた、CBT、医師国家試験、卒業試験及び入学試験のデータの分析を全学 IR センターにも委託することが可能かどうか検討した。卒業試験の結果と国家試験の結果を分析し、各講座への卒業試験のフィードバックを検討することとした。[資料 18]

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 18 令和5年（2023年）度第1回教育情報分析室会議議事録

## 3.2 評価と学修との関連

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 評価の原理、方法を用いて以下を実現する評価を実践しなくてはならない。
  - ・ 目標とする学修成果と教育方法に整合した評価である。(B 3.2.1)

- ・ 目標とする学修成果を学生が達成していることを保証する評価である。(B 3.2.2)
- ・ 学生の学修を促進する評価である。(B 3.2.3)
- ・ 形成的評価と総括的評価の適切な比重により、学生の学修と教育進度の判定の指針となる評価である。(B 3.2.4)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ 「卒前医学教育アウトカム」の項目それぞれについて確実な評価を行い、個々の学修成果が達成されていることを保証すべきである。
- ・ 形成的評価の実施状況を把握し、総括的評価との適切な比重を定めて、実施すべきである。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

全学の「教育マネジメント機構教学マネジメント室内部質保障委員会」において、令和4年度に実施した卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」の集計結果の検証を行った。[資料 19] [資料 20]

形成的評価と総括的評価の適切な比重について、今後「医学教育カリキュラム委員会」で検討を行う。また、「卒前医学教育アウトカム」のそれぞれの項目についての評価をどのように行うか、同委員会で検討を行う。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 19 令和5年度（2023年度）第3回教育マネジメント機構教学マネジメント室内部質保証委員会議事概要
- ・ 資料 20 2022年度卒業時調査（教育・学修成果の検証に関するアンケート）集計結果

### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム(教育)単位ごとに試験の回数と方法(特性)を適切に定めるべきである。(Q 3.2.1)
- ・ 学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うべきである。(Q 3.2.2)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための示唆

- ・すべての科目において、試験後に問題を公開し、解説などによってフィードバックを行うことが望まれる。
- ・ポートフォリオなどを活用し、臨床実習におけるフィードバックを充実させることが望まれる。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和4年度に引き続き、ポートフォリオのCC-EPOCの入力状況を把握し、教育医長会議を通じて各診療科と定期的な情報共有を実施した。[資料21]

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料21 令和5年度第2回教育医長会議議事概要

## 4. 学 生

領域4における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、全学入試委員会において、入学決定に対する疑義申し立て制度について全学の入試委員会において審議した。大学としては制度の導入は見合わせるものの、社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて検討することとした。これまで医学教育カリキュラム委員会および医学教育評価委員会には、医学科4・5年生の学生のみが参加していたが、すべての学年の学生が参加するように、内規を改正した。学生カウンセリングとしてチューター制度を採用しているが、学生面談の実施率が低いことが課題であった。

今後は、チューター制度を見直し、学生面談が定期的にかつ効果的に行われる仕組みを構築する必要がある。

### 4.1 入学方針と入学選抜

#### 基本的水準：適合

医学部は、

- ・ 学生の選抜方法についての明確な記載を含め、客観性の原則に基づいて入学方針を策定し、履行しなければならない。(B 4.1.1)

- ・ 身体に不自由がある学生の受け入れについて、方針を定めて対応しなければならない。(B 4.1.2)
- ・ 国内外の他の学部や機関からの学生の転編入については、方針を定めて対応しなければならない。(B 4.1.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ なし

### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 選抜と、医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力との関連を述べるべきである。(Q 4.1.1)
- ・ アドミッション・ポリシー(入学方針)を定期的に見直すべきである。(Q 4.1.2)
- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用すべきである。(Q 4.1.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を、受験生に公開することが望まれる。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

全学入試委員会において、入学決定に対する疑義申し立て制度について全学の入試委員会において審議した。大学としては制度の導入は見合わせるものの、社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて検討することとした。[資料 22]

今後は、医学部入試委員会において入試の科目や選抜方法についての適正性について「医学部教育情報分析室」と連携し必要に応じた改善を実施していくとともに、入学者選抜方針とアウトカムやディプロマ・ポリシーとの整合性を検証していくこととした。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 22 令和 5 年度（2023 年度）第 9 回入試委員会議事概要

## 4.2 学生の受け入れ

### 基本的水準：適合

医学部は、

- 教育プログラムの全段階における定員と関連づけ、受け入れ数を明確にしなければならない。(B 4.2.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- なし

### 改善のための助言

- なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部入試委員会において総合型選抜における、へき地医療拠点病院体験活動について検討した。[資料 23] また、地域医療を担う医師確保のため、文部科学省に地域枠に係る臨時定員増の申請を行い承認された。[資料 24] 地元出身者枠入学生への教育について高度医療人育成プログラムにおける対応を検討した。

へき地医療医師確保に資するため、総合型選抜の地域枠と一般選抜の地元出身者枠を設けているが、その効果について、検証し入学定員に関しては社会の要請と照らし合わせながら見直しを行う。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 23 令和 5 年度第 6 回医学部入試委員会議事概要
- 資料 24 医学部の収容定員の増加について（通知）

## 4.3 学生のカウンセリングと支援

### 基本的水準：適合

医学部および大学は、

- 学生を対象とした学修支援やカウンセリングの制度を設けなければならない。(B 4.3.1)
- 社会的、経済的、および個人的事情に対応して学生を支援する仕組みを提供しなければならない。(B 4.3.2)
- 学生の支援に必要な資源を配分しなければならない。(B 4.3.3)

- カウンセリングと支援に関する守秘を保障しなければならない。(B 4.3.4)

### 特記すべき良い点（特色）

- なし

### 改善のための助言

- チューター制度をさらに活性化させ、成績不振学生への支援を充実させるべきである。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

指導教員に履修指導用成績資料を送付し、指導学生との面談を年に一度以上実施し、面談記録を教務情報システムに入力した。保健管理センターでは、入学時のメンタルヘルスチェックを行い、必要な学生に対して、臨床心理士との定期的な面談等を行った。[資料 25]

面談が行われていない学生が多いことが確認されたため、令和 6 年度からチューター制度を見直すこととなった。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 25 2023 年度 精神衛生相談概要（挟間健康相談室）

## 4.4 学生の参加

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 学生が以下の事項を審議する委員会に学生の代表として参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行しなければならない。
  - 使命の策定(B 4.4.1)
  - 教育プログラムの策定(B 4.4.2)
  - 教育プログラムの管理(B 4.4.3)
  - 教育プログラムの評価(B 4.4.4)
  - その他、学生に関する諸事項(B 4.4.5)

## 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

## 改善のための助言

- ・使命と教育プログラムの策定、学生に関する諸事項について審議する委員会に学生の代表が参加し、適切に議論に加わるべきである。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育企画開発委員会において、授業日程等について学生とともに検討した。

[資料 26]

「医学教育カリキュラム委員会」の構成員には、令和 5 年度から 1-6 年生のすべての学年の学生が参加することに変更された。[資料 14] [資料 27]

「医学教育評価委員会」の構成についても、これまで「医学科の学生 若干人」として 4 年生と 5 年生の代議員 4 名が参加していたが、委員会内規を見直し、令和 6 年度からは、「医学科の 1 年生から 6 年生までの学生 各学年 2 人」とし、全学年の代議員を構成員とすることとした。[資料 28] [資料 02] [資料 03] [資料 29]

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 26 令和 5 年度第 1 回医学教育企画開発委員会議事概要
- ・資料 14 大分大学医学部医学教育カリキュラム委員会規則
- ・資料 27 医学部医学教育カリキュラム委員会構成員名簿
- ・資料 28 令和 5 年度第 1 回医学教育評価委員会議事概要
- ・資料 02 基幹教員に対応する医学科新会議体制図
- ・資料 03 規定等の制定、改廃等について取り纏め
- ・資料 29 大分大学医学部医学教育評価委員会細則

## 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・学生の活動と学生組織を奨励するべきである。(Q 4.4.1)

## 特記すべき良い点（特色）

- ・「ボランティア支援室」や「大分大学生き生き<sup>2</sup>プロジェクト“分大 Switch On”」等を通じて、学生のボランティア活動を支援している。

## 改善のための示唆

- ・なし

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「大分大学生き生き<sup>2</sup>プロジェクト」において、令和5年度に医学科からは、「日本の狂犬病の歴史をまとめ、世界へ発信する。」が採択され、取り組みを支援した。

[資料 30] [資料 31]

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 30 大分大学生き<sup>2</sup>プロジェクト 2023 実施報告書（総表）
- ・資料 31 大分大学生き<sup>2</sup>プロジェクト 2023 実施報告書

# 5. 教 員

領域 5 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、大分大学医学部教授会構成員と教員を対象にモデル・コア・カリキュラムに関する FD を開催した。また、大分大学医学部教授公募の内容を精査し、「各専門分野の学部教育及び大学院博士課程の授業担当ができる」者を応募条件としており、「教育の概要」、「教育評価に関する書類」、自身の教育方法等についての考えを具体的に記す「将来の抱負」の提出を必須としており、選考過程で重視していることを確認した。

今後は教育業績の客観的指標を提示しスコア化することを検討している。また、継続的に個々の教員がカリキュラム全体を把握できる FD を開催し、すべての教員の教育能力を向上させることが今後の課題である。

## 5.1 募集と選抜方針

### 5.1 募集と選抜方針

#### 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 教員の募集および選抜の方針において、以下の評価基準を考慮すべきである。
  - その地域に固有の重大な問題を含め、医学部の使命との関連性(Q 5.1.1)
  - 経済的事項(Q 5.1.2)

#### 特記すべき良い点（特色）

- ・地域課題の解決と国際貢献のための講座開設や教員募集と選抜を行っている。

## 改善のための示唆

- ・なし

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

大分大学医学部教授公募の内容を精査したところ、「各専門分野の学部教育及び大学院博士課程の授業担当ができる」者を応募条件としており、「教育の概要」、「教育評価に関する書類」、自身の教育方法等についての考えを具体的に記す「将来の抱負」の提出を必須としており、選考過程で重視していることが確認できた。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・なし

## 5.2 教員の活動と能力開発

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 教員の活動と能力開発に関する方針を策定して履行しなければならない。その方針には以下が含まれる。
  - 教育、研究、診療の職務間のバランスを考慮する。(B 5.2.1)
  - 教育、研究、診療の活動における学術的業績の認識を行う。(B 5.2.2)
  - 診療と研究の活動が教育活動に活用されている。(B 5.2.3)
  - 個々の教員はカリキュラム全体を十分に理解しなければならない。(B 5.2.4)
  - 教員の研修、能力開発、支援、評価が含まれている。(B 5.2.5)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・具体的に定められた基準に基づく教員の業績評価を実施している。

### 改善のための助言

- ・すべての教員の教育能力を向上させるために、教員の能力開発に関する方針を策定し、履行すべきである。
- ・教員の職務や能力に合わせたFDを企画し、確実に受講させるべきである。
- ・各教員の教育へのエフォートについて、教育、研究、診療の職務間について医学部全体としてのバランスを考慮して決定すべきである。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和5(2023)年度に大分大学医学部教授会構成員を対象にモデル・コア・カリキュラムに関するFDを開催した。教授会の冒頭で行ったが、教授会構成員以外にもZoom配信を行った。[資料32]

年に1度の教員業績評価調書において、各教員の教育・研究・診療などに関するそれぞれのエフォートの割合や目標に対する達成度を自己評価している。さらに各教員の労働環境を熟知した評価者が客観的な評価を併せて行い、特記事項や総合所見について、各教員へフィードバックも実施している。

今後教育活動の業績評価の方法に関し、客観的指標を提示しスコア化することを検討する。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料32 コアカリキュラムに関するFD資料

## 6. 教育資源

領域6における、「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、学生実習をより充実させるため、医学部基礎実習棟の改修工事を開始した。学修環境を向上のため、老朽化した学生講義室等の設備・備品及びネットワーク環境の整備を実施した。医学部正門前の朝夕の車両渋滞を緩和し、学生の講義への参加および患者の医学部附属病院へのアクセスを円滑にするため、正門前の道路拡張工事を実施した。学生に対し、情報リテラシー教育を取り入れ、実施している。インターネットのアクセスポイントを増設し、アクセスが向上した。

学生が経験可能な疾患分類の調査・把握に着手し、CC-EPOCからも学生が実際に経験出来ているかを調査し、必要に応じてStage2で不足している疾患症例を補えるように努めていく予定である。

教職員と学生のための施設・設備を十分に整備して、カリキュラムが適切に実施されるように、さらに学修環境の改善を行っていくことが今後の課題である。

### 6.1 施設・設備

#### 基本的水準：適合

医学部は、

- 教職員と学生のための施設・設備を十分に整備して、カリキュラムが適切に実施されることを保障しなければならない。(B 6.1.1)
- 教職員、学生、患者とその家族にとって安全な学修環境を確保しなければならない。(B 6.1.2)

### 特記すべき良い点（特色）

- 24時間アクセスすることが可能な医学図書館が整備されている。

### 改善のための助言

- グループ学習室の拡充など、学修環境の整備をさらに進めるべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生実習をより充実させるため、医学部基礎実習棟の改修工事を開始するにあたり、医学教育企画開発委員会において、実施棟の改修に係る講義日程の変更について学生とともに検討し、授業の実施について配慮を行った。[資料 26]

また、情報処理実習室(チュートリアル室等)のパソコン入れ替えを行なった。

医学部正門前の朝夕の車両渋滞を緩和し、学生の講義への参加および患者の医学部附属病院へのアクセスを円滑にするため、正門前の道路拡張工事を実施した。

さらに、患者専用駐車場を100台分新設した。[資料 33]

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 26 令和5年度第1回医学教育企画開発委員会議事概要
- 資料 33 県道入口交差点改良及び駐車場整備 (R5年度事業)

### 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- 教育実践の発展に合わせて施設・設備を定期的に更新、改修、拡充し、学修環境を改善すべきである。(Q 6.1.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- なし

### 改善のための示唆

- シミュレーション教育を推進するために必要な機器の導入や更新が望まれる。

## 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

学修環境を向上させるため、老朽化した学生講義室の設備・備品の整備を実施した。具体的には臨床大講義室の電動スクリーンの交換、臨床中講義室及び 211 講義室のプロジェクター、スイッチ類の、マイクなど音声設備の更新のための予算 8,398,000 円を部局長戦略経費として措置し整備を実施した。今後も計画的に施設・設備の更新・改修を実施していく。[資料 34]

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 34 令和 5 年度（2023 年度）支出予算の配分について（通知）

## 6.2 臨床実習の資源

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 学生が適切な臨床経験を積めるように以下の必要な資源を十分に確保しなければならない。
  - ・ 患者数と疾患分類(B 6.2.1)
  - ・ 臨床実習施設(B 6.2.2)
  - ・ 学生の臨床実習の指導者(B 6.2.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ 多くの医員・研修医が、屋根瓦方式の教育に関わっている。

### 改善のための助言

- ・ 学生が経験する患者数と疾患分類を把握し、必要に応じて学生が適切な臨床経験を積めるように臨床実習施設を整備すべきである。
- ・ 臨床実習の学内外指導者のための FD を広く実施すべきである。

## 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

各診療科における、学生が経験可能な疾患分類の調査・把握に着手した。また、CC-EPOC からも学生が実際に経験出来ているかを調査し、必要に応じて Stage2 で不足している疾患症例を補えるように努めていく。[資料 35]

「医学教育企画開発委員会」や地域医療学センターが中心となり、学外実習病院における学生が経験可能な疾患分類の調査・把握に着手した。今後は、その結果を実習

病院の教育医長にもフィードバックしていく。

地域医療学センターが中心となって、地域医療実習協力病院が一同に会し、地域医療教育について議論するFDを令和6年度に再開することが検討された。

今後は、課題の抽出とその対策の共有などを通して、FDをさらに促進させていく。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 35 CC-EPOC 症例入力状況

### **質的向上のための水準：部分的適合**

医学部は、

- ・ 医療を受ける患者や地域住民の要請に応じているかどうかの視点で、臨床実習施設を評価、整備、改善すべきである。(Q 6.2.1)

### **特記すべき良い点（特色）**

- ・ なし

### **改善のための示唆**

- ・ 医療を受ける患者や地域住民の要請に応じているかどうかの視点で、臨床実習施設を評価、整備、改善することが望まれる。

### **関連する教育活動、改善内容や今後の計画**

地域医療学センターが中心となって、地域滞在型実習先の医療機関の外来にて患者や家族に対し、実習施設における要望や満足度についてのアンケート調査を行った。

[資料 36] 今後は、それらの結果を実習先医療機関にもフィードバックしていく。

### **改善状況を示す根拠資料**

- ・資料 36 地域医療実習における学生評価

## **6.3 情報通信技術**

### **基本的水準：適合**

医学部は、

- ・ 適切な情報通信技術の有効かつ倫理的な利用と、それを評価する方針を策定して履行しなければならない。(B 6.3.1)
- ・ インターネットやその他の電子媒体へのアクセスを確保しなければならない。(B 6.3.2)

## 特記すべき良い点（特色）

- ・ 情報通信技術に関する様々なシステムやアプリケーション等を有効に利用している。

## 改善のための助言

- ・ 安定したインターネットアクセスが確保できるよう、接続環境を整備すべきである。
- ・ 学生に対する情報セキュリティ教育を定期的かつ確実に実施すべきである。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学部学生に対して患者情報の取り扱いに対する具体的指導方法を検討する、情報リテラシー教育を授業内容に含め、学部学生への周知徹底を行なっている。[資料 37]

また、情報リテラシーのオンライン教材を利用し、全学生に受講を促している。

個人情報保護委員会を設置し、適切な情報の取り扱いを進める。学内 LAN への学外からの VPN 接続サービスが更新されるのにあわせ電子カルテの利用形態の見直しを検討している。インターネットのアクセスポイントを 139 から 220 に増設することで、学内でインターネットアクセスが出来ない場所を解消した。学外から学内限定サービスの利用を行えるよう VPN によるネットワーク環境整備を行なった。[資料 38]

## 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 37 情報リテラシー教育オンライン教材 1-1)Moodle 画面例
- ・ 資料 38 基盤情報および教育情報システムの更新について

## 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・ 教員および学生が以下の事項についての既存のICTや新しく改良されたICTを使えるようにすべきである。
  - ・ 自己学習(Q 6.3.1)
  - ・ 情報の入手(Q 6.3.2)
  - ・ 患者管理(Q 6.3.3)
  - ・ 保健医療提供システムにおける業務(Q 6.3.4)
- ・ 担当患者のデータと医療情報システムを、学生が適切に利用できるようにすべきである。(Q 6.3.5)

## 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ 学生の電子カルテ記載の承認・登録システムについて、学生カルテの利用率向上の観点から検証することが望まれる。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

端末の許可制で、学内 LAN 経由のシンククライアント端末接続による電子カルテ利用を実施している。利用状況、性能等の条件をふまえ、許可端末の増強を検討している。

診療報酬改定など定期的に発生するシステム改修案件に随時対応できる管理体制の構築、大分県中部地区の医療情報連携を目的とした「おおいた医療ネットワーク」の構築に主要施設として関わっている。[資料 39]

シンククライアント端末経由での学生カルテの利用が可能となるよう計画している。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料39 令和6年度 おおいた医療ネットワーク運営協議会 運営委員会委員

## 6.4 医学研究と学識

### 基本的水準：適合

医学部は、

- ・ 教育カリキュラムの作成においては、医学研究と学識を利用しなければならない。  
(B 6.4.1)
- ・ 医学研究と教育が関連するように育む方針を策定し、履行しなければならない。  
(B 6.4.2)
- ・ 研究施設・設備と研究の重要性を明示しなければならない。(B 6.4.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ なし

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

学生は医学図書館を通して、臨床医学情報のオンラインツールである UpToDate を利用できるようになっている。令和5年7月から令和5年12月の半年間の登録ユーザー数は75名であり、令和5年2月から令和5年12月の使用履歴は合計7294回となっている。[資料 40] [資料 41]

医学部基礎臨床研究棟西側1階の改修工事を行い、研究マネジメント機構実験機器管理部門が管理する共通の大型実験機器室を改修し、各機器を機能的に集約した。令和4年度に医学部院生研究棟6階にバイオリボセンター5を設置し、令和5年度から病理学的研究を実施できる体制を整えた。学部学生にはこれらの利用許可を与え、研究室配属中に活用している。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料40 利用統計\_専門領域別ヒット数 大分大学\_UpToDate
- ・資料41 ユーザー属性別のUpToDateトピック閲覧数

### 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・以下の事項について医学研究と教育との相互関係を担保すべきである。
  - ・現行の教育への反映(Q 6.4.1)
  - ・学生が医学の研究開発に携わることの奨励と準備(Q 6.4.2)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・将来、学生が医学研究や開発に携わることの奨励と準備として、「Pre-ORPhDプログラム」を実施している。

### 改善のための示唆

- ・なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

4年次の研究室配属についてより早期から取り組むことを可能にするため、前年度11月に実施した各研究室における研究内容の説明会を本年度は9月に実施した。

[資料42]

臨床薬理学講座に配属された学生の研究を第7回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会で発表し、その経費を講座より支弁した。[資料06] 総合診療・総合内科学講座の研究室配属で研究した内容を、学生が日本プライマリ・ケア連合学会学術総会の学生セッションで発表した。[資料43]

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料42 令和6年度研究室配属スケジュール
- ・資料06 第7回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会プログラム

- ・資料 43 日本プライマリ・ケア連合学会

## 6.5 教育専門家

### 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・ 教職員の教育能力向上において学内外の教育専門家が実際に活用されていることを示すべきである。(Q 6.5.1)
- ・ 教育評価や医学教育分野の研究における最新の専門知識に注意を払うべきである。(Q 6.5.2)
- ・ 教職員は教育に関する研究を遂行すべきである。(Q 6.5.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ なし

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

令和 4 年改訂版モデル・コア・カリキュラムに関する FD を他大学の医学教育専門家により実施した。[資料 32]

医学教育センター教員が医学教育学会において研究発表を行った。また、医学教育に関する科研費を獲得し、IT を使った医学教育の教育効果について研究を開始している。その他の教育に関わる研究を学部として把握できる方法について検討を開始する。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 32 コアカリキュラムに関する FD 資料

## 6.6 教育の交流

### 基本的水準：適合

医学部は、

- ・ 以下の方針を策定して履行しなければならない。
  - ・ 教職員と学生の交流を含め、国内外の他教育機関との協力(B 6.6.1)
  - ・ 履修単位の互換(B 6.6.2)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

- ・なし

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

令和 3 年度に開設した大分大学グローバル感染症研究センターには専任教員に加え医学部から兼任教員も参加し、感染症研究に従事している。令和 5 年度は当センターの共同研究費を活用し、国内外の研究者と 41 件(国内 31 件、国外 10 件)の共同研究を実施した。また、共同研究者によるセミナーを 17 回開催し、本学の教職員および学生が対面およびオンラインの両方で参加した。[資料 44] [資料 45]

令和 5 年度は、6 年次生を対象にしたフィリピンのサンラザロ病院での臨床実習に 3 名の学生が参加した。また、4 年次生を対象にした研究室配属にはタイ王国マヒドン大学医学部から 2 名の学生を受け入れ、タイ王国マハーサーラカム大学獣医学部からは 3 名の学生を受け入れた。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 44 令和 5 年度（2023 年度）大分大学グローバル感染症研究センター共同研究採択課題
- ・資料 45 グローバル感染症研究センター シンポジウム等開催実績

### 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・ 適切な資源を提供して、教職員と学生の国内外の交流を促進すべきである。(Q 6.6.1)
- ・ 教職員と学生の要請を考慮し、倫理原則を尊重して、交流が合目的に組織されることを保障すべきである。(Q 6.6.2)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための示唆

- ・なし

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

外国人留学生の宿泊施設を拡充するため、令和4年8月の施設整備委員会にて、「看護師宿舎」を「医学部外国人留学生等宿泊施設」に用途変更し、当施設は同年9月より運用が開始されている。令和5年度にはさらに医学部外国人留学生等宿泊施設の住環境整備の一環として、Wi-Fi環境整備を実施した。[資料46]

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料46 令和5年度予算配分通知 学長戦略経費 医学部外国人留学生等施設Wi-Fi環境整備

# 7. プログラム評価

領域7における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、教務委員会、医学教育カリキュラム委員会、医学教育評価委員会の役割を明確にし、構成員の見直しを行った。

卒業時にディプロマ・ポリシーが達成できているかの評価を確実に行うことが今後の課題である。学生や教員からのフィードバックをもとに確実に改善につなげる仕組みの構築が必要である。また、卒業した学生の状況を把握するためのシステム作りについて、次年度ワーキング・グループで検討を開始する予定である。

## 7.1 プログラムのモニタと評価

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 教育プログラムの課程と成果を定期的にモニタする仕組みを設けなければならない。(B 7.1.1)
- 以下の事項について教育プログラムを評価する仕組みを確立し、実施しなければならない。
  - カリキュラムとその主な構成要素(B 7.1.2)
  - 学生の進歩(B 7.1.3)
  - 課題の特定と対応(B 7.1.4)
- 評価の結果をカリキュラムに確実に反映しなければならない。(B 7.1.5)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・教育プログラムをモニタし評価するために「医学教育情報分析室」と「医学教育評価委員会」が設立されている。

### 改善のための助言

- ・試験成績の分析だけでなく、卒前医学教育アウトカムの達成の観点から、カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩や課題の特定と対応について、教育プログラムの評価を行うべきである。
- ・「医学部教育情報分析室」と「医学教育評価委員会」の活動を実質化して教育プログラムの評価を行い、その結果を「医学教育企画開発委員会」で検討し、カリキュラムに確実に反映させるべきである。
- ・教育プログラム評価を行う組織は、カリキュラムの立案と実施を行う組織とは独立しているべきである。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

基幹教員制度の策定に伴い、教育に関わる委員会の見直しを行った。医学教育カリキュラム委員会と教務委員会の内規を改訂し、それぞれの委員会の役割を明記した。[資料 14] [資料 47] それによって、学生が参加する医学教育カリキュラム委員会がカリキュラムの作成を行うことが明確になった。また、教育組織の PDCA サイクルが回るように、教育組織の改編を行った。[資料 02]

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 14 大分大学医学部医学教育カリキュラム委員会細則
- ・資料 47 大分大学医学部教務委員会細則
- ・資料 02 基幹教員に対応する医学科新会議体制図

## 7.2 教員と学生からのフィードバック

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応しなければならない。(B 7.2.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

- ・授業評価アンケートだけでなく、教育プログラム全体について、教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

「医学教育評価委員会」の構成員はこれまで「医学科の学生 若干人」として4年生と5年生の代議員4名が参加していた。令和5年度に委員会内規を見直し、令和6年度からは、「医学科の1年生から6年生までの学生 各学年2人」とし、全学年の学生を構成員に加え、カリキュラム評価へのフィードバックを求める体制を整えた。

[資料 28] [資料 29]

### 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 28 令和5年度第1回医学教育評価委員会議事概要
- ・資料 29 大分大学医学部医学教育評価委員会細則

### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- ・ フィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発すべきである。(Q 7.2.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための示唆

- ・教育プログラムに関する教員と学生からの系統的なフィードバックを分析し、教育プログラムを開発することが望まれる。

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

本学では Campus Square を通じて行う授業評価アンケートがあり、各コースの Moodle の最後に授業評価アンケートの URL を載せる体制としているが、学生の回答率が未だ充分とはいえない。また、そのアンケートの結果を教員が自己点検し、「教員による授業の自己点検レポート」を作成することとなっているが、自己点検レポートの作成率も低いままである。フィードバックされたものを改善に生かすため、自己点検

レポート作成を行う体制作りが必要であり、医学教育評価委員会等で議論を行う。

[資料 48] [資料 49]

医学教育企画開発委員会（現医学教育カリキュラム委員会）において、卒前カリキュラムの改善、モデル・コア・カリキュラムの改訂に伴う臨床実習スケジュール及びカリキュラム等、教育プログラムの改善に向け学生委員を含め議論した。[資料 10]

教員からのフィードバックは、医学教育カリキュラム委員会や医学教育評価委員会の委員から得ているのみであり、系統的に教員からのフィードバックを求める体制を作る必要がある。次年度は、オムニバス形式で行っている1年次の健康科学概論や4年次の症候学において、担当教員に対し事後アンケートを実施する。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 48 令和4年度（2022年度）前期教員による自己点検レポート集
- ・ 資料 49 2022年度後学期教員による自己点検レポート集学生による授業評価へのフィードバック
- ・ 資料 10 令和5年度第2回医学教育企画開発委員会議事概要

## 7.3 学生と卒業生の実績

### 基本的水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 以下の項目に関して、学生と卒業生の実績を分析しなければならない。
  - ・ 使命と意図した学修成果(B 7.3.1)
  - ・ カリキュラム(B 7.3.2)
  - ・ 資源の提供(B 7.3.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ 自己評価による卒業時のアウトカム達成度調査だけでなく、在学中や卒業後の調査等で、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学の卒業判定は、卒業試験と臨床実習後 OSCE の結果で行われている。これは本学のディプロマ・ポリシー（DP）のごく一部を評価しているにすぎない。令和6年度から、各科目のシラバスを DP との関連を明記する書式に変更した。すべてのシラバスか

ら、各修学期において、DP の項目を達成できているかを評価する仕組みを作成する。

[資料 50]

令和 6 年度に、卒前医学教育アウトカムロードマップを見直す予定であり、修学期ごとにマイルストーンを作成し、形成的評価を行いながら総括評価を行う仕組みを構築する。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 50 令和 6 年度シラバス 臨床実習入門総合医学

## 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- 以下の項目に関連して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。
  - 背景と状況(Q 7.3.1)
  - 入学資格(Q 7.3.2)
- 学生の実績の分析を使用し、以下の項目について責任がある委員会へフィードバックを提供すべきである。
  - 学生の選抜(Q 7.3.3)
  - カリキュラム立案(Q 7.3.4)
  - 学生カウンセリング(Q 7.3.5)

## 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

## 改善のための示唆

- ・背景と状況、入学時成績に関して学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。
- ・学生の実績の分析を使用し、カリキュラム立案、学生カウンセリングについて責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和 5 年度までは学生 1 人 1 人にチューター（主に各講座の教授）をあて、年 1 回以上は面談を行う、というシステムを構築していた。しかしながら一度も面談がないまま卒業する学生が多く、チューター制度が機能していなかった。令和 6 年からはこの制度の見直しを行い、教授を中心とした各講座の教員が学生のチューターとなるシステムに変更した。定期的に面談を行い、メンタル面や学修面でのサポート等が必要な学生を早めに見つけ出し、サポートシステムにつなげることとした。[資料 51]

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 51 第1回医学科の仮進級システム改訂検討ワーキング議事概要

## 7.4 教育の関係者の関与

### 基本的水準：適合

医学部は、

- ・ 教育プログラムのモニタと評価に教育に関わる主要な構成者を関与させなければならない。(B 7.4.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ 「医学教育評価委員会」には、幅広い学年の学生を含むべきである。

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「医学教育評価委員会」の構成員は、「医学科の学生若干人」として4年生と5年生の代議員4名が参加していたが、委員会内規を見直した。令和6年度からは、「医学科の1年生から6年生までの学生 各学年2人」とし、全学年の学生を構成員とすることとした。[資料 29]

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 29 大分大学医学部医学教育評価委員会細則

### 質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- ・ 広い範囲の教育の関係者に、
  - ・ 課程および教育プログラムの評価の結果を閲覧することを許可するべきである。(Q 7.4.1)
  - ・ 卒業生の実績に対するフィードバックを求めるべきである。(Q 7.4.2)
  - ・ カリキュラムに対するフィードバックを求めるべきである。(Q 7.4.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

## 改善のための示唆

- ・ 広い範囲の教育の関係者に、課程および教育プログラムの評価結果の閲覧を許可することが望まれる。
- ・ 広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績、カリキュラムに対するフィードバックを確実に求めることが望まれる。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生の実績を把握するためには、卒業後も大学とつながりを持ち続ける必要がある。本学には同窓会として「玉樹会」があるが、特に若い世代において、同窓会としての機能は十分に果たせていない。今後は卒業生とつながりを持つための方略を検討するためのWGを立ち上げ、学生委員も加えて検討を開始する予定である。[資料 52]

## 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 52 令和 5 年度(2023 年度)第 9 回医学部執行部会議議事要旨

# 8. 統轄および管理運営

領域 8 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、教育課程の編成や学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与等の学部の運営について責任を担う会議に、助教以上の教員が参加できるように会議の審議事項と構成員を見直し、より審議事項及び構成員の見直しを行い、体制整備を行った。

教学におけるリーダーシップをとる機関として、医学部執行部会議を設置した。医学部の果たす役割と未来のあるべき姿を踏まえて、医学部ビジョン 2023 を策定し、成果を中心とする実績状況の目標達成に取り組んだ。

さらに、大分県と地域医療教育・研修推進事業委託契約を締結し、医学生及び研修医が地域医療に直に触れる研修フィールドを確保するとともに、地域医療を担う医師を養成する教育・研修プログラムを策定する委託事業を受託し、地域医療を支援している。

今後も医学部執行部が医学教育プログラムの策定と管理、予算の確保と執行に関する責任を持つことが重要である。

## 8.1 統轄

### 基本的水準：適合

医学部は、

- ・ その統轄する組織と機能が、大学内での位置づけを含み、明確にしなければならない。  
(B 8.1.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための助言

- ・ なし

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

教育課程の編成や学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与等の学部の運営について責任を担う会議に、助教以上のすべての教員が参加できるように会議の審議事項と構成員を見直し規定化した。[資料 01] [資料 02] [資料 03]

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 01 令和 5 年度第 15 回教授会議事概要
- ・ 資料 02 基幹教員に対応する医学科新会議体制図
- ・ 資料 03 規定等の制定、改廃等について取り纏め

### 質的向上のための水準：適合

医学部は、

- ・ 統轄する組織として、委員会組織を設置し、下記の意見を反映させるべきである。
  - ・ 主な教育の関係者(Q 8.1.1)
  - ・ その他の教育の関係者(Q 8.1.2)
- ・ 統轄業務とその決定事項の透明性を確保するべきである。(Q 8.1.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

### 改善のための示唆

- ・ なし

## 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

医学教育の PDCA のサイクルを回していくために「医学教育企画開発委員会」を「医学教育カリキュラム委員会」の変更し、審議事項等を見直すとともに下部組織として部会を配置することとした。「医学教育評価委員会」の構成員を見直し、1年から6年までの学生を委員として参加させることとした。[資料 01] [資料 02] [資料 03] [資料 29]

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 01 令和 5 年度第 15 回教授会議事概要
- ・資料 02 基幹教員に対応する医学科新会議体制図
- ・資料 03 規定等の制定、改廃等について取り纏め
- ・資料 29 大分大学医学部医学教育評価委員会細則

## 8.2 教学のリーダーシップ

### 基本的水準：適合

- ・ 医学教育プログラムの策定と管理に関する教学における執行部の責務を明確に示さなければならない。(B 8.2.1)

### 特記すべき良い点（特色）

- ・なし

### 改善のための助言

- ・なし

## 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

教学におけるリーダーシップをとる組織として、令和 5 年度に医学部執行部会議を設置した。[資料 53] 医学部ビジョン 2023 を策定し、医学部の果たす役割と未来のあるべき姿を踏まえて、取り組むべき課題を具体的に示し、成果を中心とする実績状況の目標達成に取り組んだ。[資料 54] 今後も医学部執行部を中心として、医学部ビジョンの更新を行い、教育におけるリーダーシップを発揮する。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 53 大分大学医学部執行部会議細則
- ・資料 54（取扱注意） 医学部ビジョン 2023

## 8.3 教育予算と資源配分

### 基本的水準：適合

医学部は、

- カリキュラムを遂行するための教育関係予算を含み、責任と権限を明示しなければならない。(B 8.3.1)
- カリキュラムの実施に必要な資源を計上し、教育上の要請に沿って教育資源を分配しなければならない。(B 8.3.2)

### 特記すべき良い点（特色）

- なし

### 改善のための助言

- なし

### 関連する教育活動，改善内容や今後の計画

学修環境を向上させるため、老朽化した学生講義室の設備・備品を整備するための経費として、部局長戦略経費（教育設備関係整備事業 8,398 千円）を措置した。[資料 34]。今後も教育関係予算の確保に努める。

### 改善状況を示す根拠資料

- 資料 34 令和 5 年度（2023 年度）支出予算の配分について（通知）

## 9. 継続的改良

### 基本的水準：適合

医学部は、活力を持ち社会的責任を果たす機関として

- 教育プログラムの教育課程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学修環境を定期的に見直し、改善する方法を策定しなくてはならない。(B 9.0.1)
- 明らかになった課題を修正しなくてはならない。(B 9.0.2)
- 継続的改良のための資源を配分しなくてはならない。(B 9.0.3)

### 特記すべき良い点（特色）

- なし

## 改善のための助言

- ・学修成果、評価ならびに学修環境の見直しを定期的に行うべきである。

## 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

人的資源として多くの教員が教育に関わる仕組みとして、教育に係る委員会の役割や人員の配置を見直し、全ての教員が教育に関わる委員会に在籍する仕組みを整えた。

[資料 01] [資料 02]

行動科学に関連する医療倫理学、公衆衛生・疫学、総合内科・総合診療科学、医学教育センターの教員でプロジェクトチームを作り、全修学期間を通じた行動科学のカリキュラム策定作業を開始した。[資料 10] [資料 11] 同時に、令和 4 年度版のモデル・コア・カリキュラムに対応したカリキュラムの作成が必要であり、臨床実習において主要な診療科を 3 週間以上実習できるローテーションについて検討を行う必要がある。

進級判定基準があいまいであり、学生や教員にとって理解しにくいいため、令和 6 年度にその仕組みを明確にすることを目標とする。[資料 15] また、現在各科で行っている卒業試験における単位認定の仕組み、臨床実習の単位認定の仕組みなども改善の余地があり、次年度の検討課題である。

教育組織の見直しにより、PDCA サイクルの役割が明確になったので、今後はこのサイクルを回し、教育改善を実質化していく。委員会を定期的開催し、学生を含めた委員が積極的に意見を述べる委員会とする必要がある。

## 改善状況を示す根拠資料

- ・資料 01 令和 5 年度第 15 回教授会議事概要
- ・資料 02 基幹教員に対応する医学科新会議体制図
- ・資料 10 令和 5 年度第 2 回医学教育企画開発委員会議事概要
- ・資料 11 行動科学カリキュラム検討ワーキング構成員名簿
- ・資料 15 大分大学医学部規程